

としょかんからはじまるコミュニティを ～みんなのとしょかんプロジェクト～

平成 25 年 2 月 5 日

I. みんなのとしょかんとは

コミュニティを醸成する場として仮設の「としょかん」を設置する活動を行っている。現在までに、宮城県石巻市、岩手県大船渡市、福島県南相馬市など 11 か所に設置。いくつかのとしょかんでは、カルチャー教室や学習支援などを行っている。

II. なぜ始めたのか？

もともとは、代表が物資を支援するボランティアを行う。

↓

経済的にも、被害の状況を見ても、個人が出来る支援の限界を痛感する

↓

とある避難者から「気分転換に本が読みたい」との話を受け、書籍の支援を開始するが、2 回目以降は受け入れを断られる。

↓ (なぜ?)

避難所生活や、限られたスペースで避難生活を送る人にとって、読み終えた本は邪魔になってしまう。

↓

避難所に本棚を設置し自由に読めるスペースを、と考えるが当時避難所を管理するスタッフは少なく「余計な仕事は増やせない」と断られる。

↓ (どうすれば?)

…発想を変えてみる…

- ・ 避難している人は本を読みたい
- ・ でも本をしまっておくスペースはない
- ・ 避難所を管理するスタッフは手一杯で、とても対応できない

・・・本を読みたいと願う被災者自らが本を管理できる仕組みも併せて支援すれば？

個人では大変なのでチームを作れば良いのでは？

みんなのとしょかん
プロジェクトの発足

Ⅲ. モノからコトへの変化

モノの支援には限界がある(特に個人)



コトの支援に変化することで継続的な支援が可能

「本を読みたい」という、被災者の直接のリクエストがきっかけとなり、
物資＝「モノ」の支援から、

「コミュニティを作る」支援＝「コト」の支援へ変化



ニーズを拾う事により、変化が生まれる

Ⅳ. としょかんから始まった「コト」

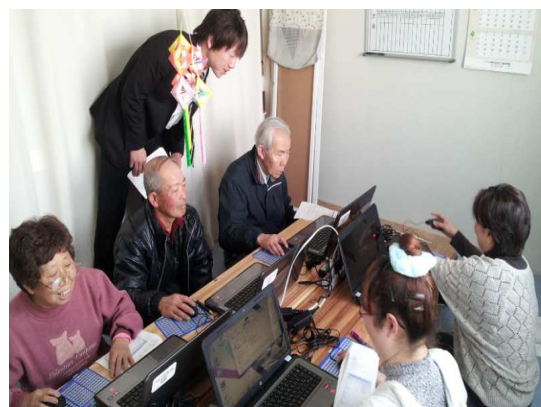
「としょかん」は変化する利用者のニーズを知ることが出来る場所

震災当初⇒「気分転換したい」ために、エッセイ、漫画、写真集が人気

時間が経つと⇒「何か始めてみたい」と実用書、料理本などが人気になる
…コトの支援をおこなうきっかけに

としょかんからはじまったコト

- ◆ 自治会組織づくり
- ◆ パソコン教室 (ブログ～ネットショップまで)
- ◆ 手芸教室
- ◆ 家庭菜園
- ◆ 創業支援セミナー
- ◆ 地域産品づくり
- ◆ 法人設立 (一般社団法人)



V. としょかんの可能性

その地域にとしょかんがある



誰でも来てよい場所がある

被災地や過疎地において、みんなが気軽に集まることが出来る場所は意外に少ない...

誰が来ても良い場所とは、誰もが等しくいられる場所

図書館とはそういう場所だと思います。

